

2023 - 2024 - 2025

期待される会社

ミツワグループ ベストモデル3カ年計画 1st Stage



高崎建設 | 社員を守り、会社を守る

評価点 (5点満点) / 5点 (良) ~ 1点 (悪)


安全	「安全の3点セット」を行っている	点数
	「声かけ確認会話」を実行している	点数
人	「人の数と共育しつけ」は大丈夫か	点数
	ベストモデルによる団結力と強固な人間関係は自慢できるか	点数
お金	待遇改善と生産性向上を実現するための蓄えは大丈夫か	点数
	お金の興味が経営に響きがある	点数
経験	「考え方×真剣さ×時間」を意識し実行している	点数
	経験を積み戦略を練ることができているか	点数
人格	努力7割があつて、周りに人が集まってくる	点数
	前向きで明るく信用があり頼りにされているか	点数
精神力	「苦難の先に幸福がある」の気持ちを持っている	点数
	「修羅場・土壇場・正念場」を乗り越える努力をしている	点数
決断実行	目標に対し「汗と知恵とスピード」を実行している	点数
	「ホンネの議論・ホンキの実行」を行っている	点数
[70点 満点]		点

深谷事業所 画竜点睛(かりょうてんせい)

理由 一昨年は「ともにはくくむ」をテーマに教える側・教わる側、共にあらたな視点からの気づきを得ながら成長する事が出来ました。また昨年は「深谷ブランド」というスローガンのもと、BH・軌陸 DT の異常時対応訓練を行い最終的にはロールプレイング方式のコンテストに参加し一人ひとりが緊急時の対応力を上げる事が出来ました。今年はそれらの経験を活かし、さらに成長する事を目標に活動する

2022年度活動報告
R4年度はベストモデル「深谷ブランド」を掲げ、社内一人一人が安全に対し強い意志を持ったおかげで安全を「定着」する事が出来ました。
R4年度の活動を振り返ってみると重機異常時訓練や作業振り返りを行い、改善点は次に生かせるように対策を行った。重機異常時に関してはトラブルがなかっただけで引き続き次年度も継続して異常時訓練を行っている

重点活動項目
①人材育成
軌道作業責任者2名、重機オペレーター2名、誘導員2名を育成する。ベストモデルの取組みとしてビジュアルや訓練機を使用し教育を実施する
(安全への取組み)
重機異常時訓練のさらなる実施を行い、他人任せにしない、誰もが緊急時に対応できるスキルを定着。また、日々の作業の振り返りをICTを使い全員で共有し安全面や作業効率を高める
(事故防止)
振り返りやヒヤリハットから危険の芽を抽出し新たな事故防止ポスターの作成
(作業効率)
あらたな小集団グループを設立し現場であると便利な物や道具のアイデアをだし作成し安全かつ効率のアップや作業ロス、疲労の軽減などを目標にする




桶川事業所 組織で取り組む『人財育成』 first stage

理由 近年、人材不足や高齢化などで事業所の人数が減少傾向にあるのが事実です。離職率の低下、定着率の向上を図るために人財育成を「心柱」に据えて3年後の桶川事業所が活気に溢れた事業所となるように事業所一丸となって取り組む

2022年度活動報告
昨年まで小集団活動2022を掲げ活動してきましたが桶川事業所独自のSNSを活用した情報共有の質・スピードともに向上した年となりました。また次世代のグループリーダーを指名することにより多少不安定にはなりましたが活気のある小集団活動ができていました

重点活動項目
①新規就業者の定着率を向上させるため小集団活動を積極的にに行い、参加してもらいできるだけ早く事業所内へ溶け込めるような環境づくりを行う
②新入社員に対する共有の考え方を改め、昔ながらの見て覚える等の放り出した育て方は行わず事業所全体が里親になり相談など気軽に聞き出せる雰囲気づくりの徹底
③仕事の助辞ソボを使用して現場方向上とともに安全意識の強化



品川事業所 共育・共有・協同

理由 ・新たな事業所を目指すにあたり、従業員の高齢化が進んできたため組織の一新を図る。そのためには人材の確保・育成で組織を若返らせる。また事業所の新体制に伴い、これまで以上に安全を意識し情報共有を大切に社員が共に同じ方向性を向いていく
・組織の若返り

2022年度活動報告
小集団活動は行ってはいたが事業所の組織力の進化としては一つでした。
出勤前・現場点呼では軌道作業会議で抽出した要注意作業のポイントを良く伝えていました。ただ、ちょっとした声掛けの不足で事故も起こしてしまいました。今年度はコストゼロでおこなえる声掛けを大切に取組んでいきたいと思えます

重点活動項目
①「次世代を担う人材の育成・継承」
・求人募集を積極的にし、先ずはひとを増やすことに力を入れていく
・入社後は「辞めたくない会社」と思えるように品川社員一同で共有していく
②「伝言会社様、社内の情報伝達、報連相」
・SNSを活用してスピーディーな情報共有を図る
・事業所内の報連相がスムーズに行える環境を構築し継続していく
③小集団活動を見直し、最適の良い現場、環境づくり
グループリーダーを中心に年間活動計画をたて実行していく
④作業の振り返りを進化させ現場でのトラブル減少
・毎週開催している作業会議での「作業の振り返り」を見える化し点呼時に活用する

